# 分子性物質の結晶構造

# (物性研究所·新物質科学研究部門) 森 初果

#### 結晶の対称性

 $t_m = m_1 a + m_2 b + m_3 c$ 

結晶の中では分子は規則正しく並んでいる。



分子の点群(1)







 $E, C_2, \sigma_v, \sigma_v', (E, C_2, 2\sigma_v)$ 

 $C_{2V}$ 

 $E, C_3^+, C_3^-,$  $\sigma_v, \sigma_v', \sigma_v''$  $(E, 2C_3, 3\sigma_v)$  $C_{3V}$ 

E,  $2C_6(z), 2C_3(z), C_2(z), 2S_6(z),$   $2S_3(z), 3C_2(\bot z), 3C'_2(\bot z), i,$   $\sigma_h, 3\sigma_v, 3\sigma_d$   $D_{6h}$ この鏡映面は $\sigma_v$ と同様 主軸を含むが、主軸に垂直な 2本の2回軸のなす角を2等分 する。 回映軸  $S_n = \sigma_h \times C_n$ 

*C*,ももちろんある



結晶学では回映軸 $\sigma_h \times C_n$ の代わりに回反軸 $i \times C_n$ を使う



# 結晶のもつその他の対称操作

\*分子の点群 32個 (並進をゼロと置く)

回転軸 (rotation axis) 1,2,3,4,5,6,---

回映軸 (rotatory reflection axis)

鏡映面 (mirror plane) m

対称心 (inversion center) i

#### \*結晶の点群=空間群 230個 (並進対象を含める)

回転軸 (rotation axis) 1,2,3,4,6 (結晶では5種類に限られる)

回映軸 (rotatory reflection axis)

鏡映面 (mirror plane) m

対称心 (inversion center) i

以上に、並進操作を加える

並進 (translation) a,b,c

らせん軸 (screw axis)  $2_1, 3_2, 4_3, 6_5$  (n<sub>m</sub>)等 (a (n/m)) × Cn

映進面 (glide plane) a,b,c,n,d (a/2) × σ

平面の上に正多角形をしきつめる方法



正五角形はダメ。



一般に正n角形の内角は 180°-360°/n なので m(180°-360°/n)=360°となるnは3, 4, 6の3種類しかない。 <sup>/n</sup>結晶には5回回転軸が無い。

ペンローズ・タイル

- 72-108°
- · 36-144°
- ロジャー・ペンローズ







らせん軸 n<sub>m</sub> (n回軸回転した後、m/nだけ並進させる)





-0

3回らせん軸 3,

2/3b

0

映進面 (鏡映させた後、1/2並進させる)





d = (a + b + c)/4 diamond方向等

#### 結晶の対称要素の記号(並進を含まないもの)

結晶で許される並進を含まない対称要素

•	記号	対称要素	図の上の記号	
	1	1回軸		
	2	2回軸	●	$C_{\rm n} \rightarrow n$
	3	3 回軸	<b>A</b>	
	4	4 回軸		
	6	6回軸	•	
	Ī	反転	0	$i \rightarrow 1$
<b>发</b>	$\overline{2}(m)$	2回回反軸(鏡面)	¬_/ —	$\sigma \rightarrow m$
		3回回反軸	Δ	
	4	4回回反軸	<b>◆</b>	
	6	6回回反軸	۲	
	the second se			

回転した後反転

#### 結晶の対称要素の記号(並進を含むもの)

並進を含んだ対称要素

記号	対称要素	図の上の記号	並 進
21	2回らせん軸	<b>j</b>	c/2, a/2または b/2
31	<b>2</b> 回 2 3 4 7 #4	<b>À</b> .	c/3
32	3回らせん軸	<b></b>	2c/3
41		*	c/4
42	4回らせん軸	<b>\</b>	2c/4
43		<b>*</b>	3c/4
61		*	c/6
62		<b>*</b>	2c/6
6 <sub>3</sub>	6回らせん軸	\$	3c/6
64		4	4c/6
, 65		٠	5c/6
a, b	nd 1/4 77		紙面に平行な並進(a/2, b/2等)
C ,	映 進 囬	10° 40° 40° 40° 40° 40° 40° 40° 40°	紙面に垂直な並進(c/2等)
n	対角映進面		(a+b)/2等
d	<i>ダイヤモンド</i> 映進面		(a+b)/4等



 $t_m = m_1 a + m_2 b + m_3 c$ 

#### 結晶の中では分子は規則正しく並んでいる。





# 7つの結晶系 crystal system

# 全部の軸が違い直角もなし

/			
三斜晶	Triclinic	$a \neq b \neq c$ $\alpha \neq \beta \neq \gamma$	P
単斜晶 🥄	Monoclinic	$a \neq b \neq c$ $\alpha = 90^{\circ} \beta \neq 90^{\circ} \gamma = 90^{\circ}$	P, C
斜方晶 🔪	Orthorhombic	a≠b≠c α=β=γ=90° 直方	<sup>-</sup> 体 P, C, I, F
正方晶	Tetragonal	$a=b\neq c  \alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$	P, I
三方晶	Trigonal	$a=b=c  \alpha=\beta=\gamma\neq 90^{\circ}$	Р
	((Rhombohedral)	六方晶と同じにもれる	R)
六方晶 🔪	Hexagonal	$a=b \neq c  \alpha = \beta = 90^{\circ} \gamma = 120^{\circ}$	P
立方晶  \	Cubic	$a=b=c  \alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$	P, I, F
全部の軸 長さは3つ ばらばら		o unique axis o <sub>h</sub> 立方体	$C_4 //z$ $C_3 //z$ $C_6 //z$









II none



Triclinic P1 a=9.211(2)Å b=10.850(4)Å c=17.488(5)Å  $\alpha=96.95(2)^{\circ}$   $\beta=97.97(2)^{\circ}$   $\gamma=90.75(2)^{\circ}$  V=1717Å<sup>3</sup> Z=2R=0.041



Fig. 1. Intermolecular overlaps in  $\alpha$ -(BEDT-TTF)<sub>2</sub>I<sub>3</sub>.

立方晶系 Pm3m	$Pm\overline{3}m$ —	$\rightarrow m\overline{3}m=0$	$O_{\rm h}$	No. 22	)1 Pm Šm
$Pm3m$ $O_h$	mām C	CONTINUED		100.22	-1 1 <i>m</i> 3 <i>m</i>
No. 221 P 4/m 3 2/m	- Patterson symmetry	Generators selected (1)	; ((1,0,0); ((0,1,0); ((0,	0,1); (2); (3); (5); (	[]); (25)
···· ↓ ↓		Postcotts Muhiplicky, Wystaff Jetter, Sile symmetry	Coordinates		Reflection conditions h,k,l permutable General:
		48 n l (1) x, y, z (5) z, x, y (9) y, z, x (13) y, x, z (17) x, z, y (21) z, y, x (23) z, y, z	(2) $f, g, t$ (3) $I, y, t$ (6) $t, J, f$ (7) $f, J, y$ (10) $g, t, t$ (11) $y, f, t$ (14) $g, J, t$ (15) $y, J, t$ (18) $I, t, t$ (19) $I, t, f$ (22) $t, g, x$ (23) $t, y, x$	(4) x, J, L (8) L, x, J (12) J, L, x (16) J, x, t (20) x, L, y (24) L, J, X (28) x x x	no conditions
		(29) 7.7.9 (33) 9.7.7 (37) 9.7.7 (41) 7.7.7 (45) 7.9.7	(30) <i>l.r.y</i> (31) <i>l.r.y</i> (34) <i>y.l.x</i> (35) <i>J.l.x</i> (38) <i>y.r.t</i> (39) <i>J.r.t</i> (42) <i>r.l.f</i> (43) <i>x.t.y</i> (46) <i>l.y.t</i> (47) <i>r.J.t</i>	(32) z, J, y (36) y, z, J (40) y, Z, Z (40) y, Z, Z (44) J, z, J (48) z, y, z	
		24 mm x 2., x 1.		2,X;X 2,X,X X,{,X X,{,X X,2,X X,2,X 7,X X,2,X 1,X,X 1,X,X	Special: no extra eonditions
		24 1 m 1. t. y.	1.7 1.9.2 1.9.2 1.9.2 1.9 2.1.9 9.2.1 9.2.1 1.2 9.1.2 9.1.2 9.1.2 1.9 1.2.9 2.9.1 2.9.1	z.].y z.].y y.z.i y.z.1 l.z.y l.z.y z.y.i z.y.1	
		24 km 0, t, y, 0,	y,z         0, <b>y</b> , <b>z</b> 0, <b>y</b> , <b>z</b> 0, <b>y</b> , <b>t</b> 0, <b>y</b> , <b>t</b> 0, <b>y</b> , <b>z</b> 0 <b>z y</b> , <b>0 z y u u u u</b> <	2.0.y 2.0.9 y.2.0 9.2.0 0.2.9 0.2.y 2.y.0 2.9.0	
		12 j m.m 2 1. J. 12 i m.m 2 0.	7.y 1.J.y 1.y.j 1.J.J 1.y J.1.J y.y.1 J.y.1 7.y 0.J.y 0.y.j 0.J.j	y.i.y y.i.y y.y.i y.y.i y.0.y y.0.y	
<b>£</b> 7 <b>£</b> 1. £7	511 <b>6</b> 53 <b>6</b>	12 h mm2 x. 1.	1.0         1.1.0         0.1.1         0.1.1           1.0         1.1.0         1.1.1         1.1.1	9.9.0 9.9.0 1.0.x 1.0.x 0.1.x 0.1.x	
		8 g . 3m x x 6 f 4m.m x,	r,x X,X,x X,x,X X,X,X r,X X,X,X X,X,X X,X,X 1,1 X,1,1 1,X,1 1,X,1	1.1.x 1.1.x	
		6 e 4m,m x, 3 d 4/mm,m 1,1	0.3.0 0.x.0 0.0.1 0.0	x,0,0 x,0,0	
ີປrigin at centre ( <i>m</i> . ງິ <i>m</i> .)		3 c 4/mm.m 0, 1 b m3m 1,	1.1 1.0.1 1.1.0		Perovskite
Asymmetric unit 05x51; 05y51; 05t51; y5x; t5y Vertices 0.0,0 1.0,0 1.1,0 1.1,1		1 a m 3m 0.0 Symmetry of special o	0,0	- Ba	Бано <sub>3</sub>
Symmetry operations (given on page 664)	÷	Along [001] p4mm z'≃z b'=b Origin st 0,0,2	Along [111] pG a'= i(2a-b-c) Origin at x,x,x	m m b' == 1(- # + 2b - c)	Along [110] p2mm a'= [(-a+b) b'=c Origin at x,x,0





- 図7-5 リゾチームの単結晶と立体構造 (Protein Data Bank Japan より転載, ID: 1HEL) (結晶写真は横浜市立大学国際総合科学研究科・橘勝博士のご厚意による). 回折像はイメージ.
- \*DNAの2重らせん構造 ワトソン、クリック、<u>Nature</u> 171 pp. 737-738, 1953、<u>ノーベル生</u> <u>理学・医学賞(1962)(ロザリンド・フランクリン)</u> \*夏目漱石「夢十夜」運慶の仁王像彫刻



Blagg反射 $k = \frac{2\sin\theta}{\lambda}$ 

グラファイトの回折を 利用して単色化する

3.3-1 表 波長とモノクロメータ角

		Mo	Cu	Cr
	Ka	0.709300	1.540562	2.28970
波長	Ka	0.713590	1.544390	2.293606
	Kα	0.71073	1.54184	2.29100
グラファ	1 ) (0 0 2),	2d = 6.702Å ℃\$	対する回折角. Ka	に対する計算値
1.1.1	θ	6.0875	13.30	19.99
	20	12.175	25.60	39.98
	$\sin \theta$	0.10605	0.23006	0.3418
	$\cos^2 2\theta$	0.9555	0.7995	0.5872



α線 L->K β線 M->K



回折X線

物体全体の散乱X線の重ね合わせ  $E = \int \rho(r) \exp[i(\omega t + \delta(r))] dv$ 電子密度 角振動数 位相差



$$= \int \frac{\rho(r) \exp[i\delta(r)]}{dv} \exp(i\omega t) = \underline{F} \exp(i\omega t)$$
  
構造因子

回折X線の強度

$$EE^{*} = F \exp(i\omega t)F^{*} \exp(-i\omega t)$$
  
=  $FF^{*} = |F|^{2} \rightarrow \dot{\alpha}$ 相問題を解く = 構造解析  
 $\delta(\mathbf{r}) = (s_{i}/\lambda - s_{o}/\lambda)\mathbf{r} = (k_{i} - k_{o})\mathbf{r} = \mathbf{kr}$   
 $F(\mathbf{k}) = \int \rho(\mathbf{r}) \exp(i\mathbf{kr}) dv$ 

構造因子=電子密度のフーリエ変換。Ewart球状にkがある時に起こる。  $k = \frac{2 \sin \theta}{\lambda}$  強度は物体の構造だけに関係し、X線の波長には関係しない。

#### 原子散乱因子

1つの原子についての構造因子(原子構造因子)。量子力学的計算で求める。 ρが球対称の場合、fもkに対して球対称でガウス関数的に減少。



#### 構造因子

単位胞の構造因子。それぞれの原子の構造因子f(k)に位相をかけて、和をとる。  $F(\mathbf{k}) = \sum_{\mu \in \mathbb{R}^{+} \circ j} f_j(k) \exp(i\mathbf{k}\mathbf{r}_j)$ 結晶の構造因子。 更に3次元的周期性 $r_q = na + mb + pc$ をもつとして、和をとる。  $C(\mathbf{k}) = \sum_{q} F_q(k) \exp(i\mathbf{k}\mathbf{r}_q) = \sum_{q} F_q(k) (\cos(\mathbf{k}\mathbf{r}_q) + i\sin(\mathbf{k}\mathbf{r}_q))$ 

 $ka = 2\pi x (整数), kb = 2\pi x (整数), kc = 2\pi x (整数)$ の時にはゼロにならない。





以上の格子を考えると、この格子点でだけ回折強度がゼロにならない条件が 満たされている。

これを逆格子と呼び、逆格子上でのX線散乱をBlagg散乱という。

図のように結晶をCに置いて、平行な単色X線を入射し、その延長上1/λのところで、 逆格子点がEward球にのったところで、Blagg散乱が観測される。結晶を回転させ る事によって、すべての逆格子点が回折球上に来るようにして、強度を測定する。

#### 結晶構造解析の筋道

- \*単結晶に単色X線を当て、回折データ| F|収集 \*回折データ| F|に位相を与える \*逆結晶F
- \*フーリエ変換して結晶の構造を求める



\* 逆格子点は周期的に並んでいるが、F(h,k,l)
 は周期的でない。
 \* 格子点のみ値F(h,k,l)有り。

\*結晶の対称性は逆結晶に反映されている。

1.12-1 🖾

# 単結晶X線回折計

Mo; 0.71073 Å, Cu; 1.54184←格子の大きい、絶対構造など高角まで必要な測定に有利 封入管(ex. ~ 2 kW)、ローター (ex. ~18 kW)

\* 単結晶X線回折計

(a)四軸型単結晶X線回折計 ω, χ, φ軸(結晶)、2θ(シンチレーションカウンタ(NaI)) (電気を帯びた粒子があたると蛍光を出す物質のことをシンチレータと呼ぶ。 ここでは放射線がNalに衝突して発する光をフォトダイオードで電圧に変えて測定している。)

(b)CCD(Charge Coupled Device Image Sensor : 光電変換したシグナ ルを半導体素子で読み出す)X線回 折計(読み取り時間短い、ダイナミッ クレンジ10<sup>4</sup>)

(c)IP(Imaging plate:支持体に光輝
 尽性蛍光体を蒸着し色中心を読み出
 す)X線回折計 (分解能は良いが
 読み取り、消去時間長い、ダイナミックレンジ10<sup>6</sup>)



<sup>\*</sup> X線源

#### 測定の手順

- 1. 結晶をゴニオメータの中心に取り付ける X線コリメータの直径以内の結晶で、X線に完浴すること。 重原子を含む場合は<0.3mm。
- 2. 格子定数の概略値とセッティングパラメータの決定。 ある角度範囲走査して回折強度のピークを探し、格子を組み立てる。
- 3. 晶族(ラウエ群)、空間格子を決定。 I(hkl) = I(hkl)たとえば、単斜晶系ならラウエ群は2/mで、 を満たす。
- 4.格子定数の精密化
- 5. 全回折強度を測定
  - \*通常等価反射はとらない

三斜晶系  $\pm h, \pm k, l > 0$ 半球が独立 I(hkl) = I(hkl)

 $\pm h, k > 0, l > 0$ 単斜晶系 I(hkl) = I(hkl)1/4球が独立 \*(独立な体積(Å<sup>3</sup>))x12反射程度を測定。例えば、500Å<sup>3</sup>単位格子の結晶なら 6000反射程度。4軸X線なら1日1200-3000反射測定できる。

6. 格子定数を高角でさらに再精密化。





#### 回折強度の測定

バックグランドの測定。低角側のb1高角側のb2で測定しl<sub>B</sub>を求める。

回折強度 $(I_0) = (21) = (21) = I_B$ 

ω走査 結晶のみを動かす ω-20走査 結晶とカウンタを動かす



3.4-10 図 ロッキングカーブ

#### 結晶構造解析

- \* 解析の出発点 空間群の決定(次ページ)
  - 物質の化学組成 分子式 単位胞中の分子の数(Z)
  - 分子は特殊位置上か一般位置上か?何原子の位置を決定すればよいか?

#### \*反射データの整理

- 偏向因子(p)、ローレンツ因子(L)の補正、(測定角による補正) 等価反射(二重取)の除去
- 吸収補正(結晶の形状)、消衰補正(多重反射、X線の反射)

#### \* 位相問題

- 直接法 構造因子の相関から直接位相角を求める方法。現在主流。
  - Sir, Shelx, SAPI, Multan
- **重原子法** 少数の原子番号の大きい原子を含む場合に、重原子の位相を出発点 として近似的を進めていく方法。生体高分子の解析に用いる重原子同形置換法は この重原子法の特異例である。

# 空間群 (三斜晶系、単斜晶系、斜方晶系)

庙 (ラウエ群)	h k l	0 k l	消 h01	滅 hk0	則 ん00	0 k 0	001	[	点 群 と 空 ]の中の記号(	2 間 群 は点群を示す	パターソン関 数の空間群	
三斜		·····		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				[1]		[ī]		
(1)			· · · · ·					P1 (1)		P1 (2)		
								[m]	[2]	[2/m]		
								Pm (6)	P2 (3)	P2/m (10)		
						k			$\begin{array}{c} P2_1 \\ (4) \end{array}$	$\frac{P2_{1}}{m}$	P2/m (10)	
単斜	斜	- 					(1)	Pc (7)		P2/c (13)	-	
(2/m)			1		r T	k	(1)			P2 <sub>1</sub> /c (14)		
	h+k	h+k		(h)	(h+k)	(h)	(k)		Cm (8)	C2 (5)	C2/m (12)	C2/m
			(k)	(h), l	(h+h)	(h)	(k)	(1)	Cc (9)		C2/c (15)	(12)
								[mm2]	[222]	[ mmm]		
直方								Pmm2 (25)	P222 (16)	Pmmm (47)		
(斜方)							l		P222 <sub>1</sub> (17)		Pmmm (47)	
(mmm)						<u> </u>			$P2_{1}2_{1}2_{1}2_{18}$			
					h	k	1		$\begin{array}{c} P2_{1}2_{1}2_{1} \\ (19) \end{array}$			

					( <i>h</i> )	(k)		Pba2 (32)		<b>Pbam</b> (55)	
		L	n	h+k	(h)	(k)			÷	Pban (50)	
		К		h	(h)	(k)	(1)			Pbca (61)	
			•	h+k	(h)	(k)	(1)			Pbcn (60)	
							(1)	Pc2m <sup>*</sup> (28)		Pcmm* (51)	
							<u>t</u>	$\begin{array}{c} Pcm2_1^{\bullet} \\ (26) \end{array}$			
			L		(1)		(1)			Pcam* (57)	
		ι.			(1)		l	Pca2 <sub>1</sub> (29)			
直方			l				(1)	Pcc2 (27)		Pccm (49)	Pmmm (47)
(#** )5) (mmm)				h	(h)		(1)			Pcca (54)	
				h+k	(h)	(k)	(1)		······································	Pccn (56)	
						(1)	(1)			Pnmm* (59)	-
		k+l				(4)	l	Pnm2 <sup>*</sup> (31)			
			2			(1)	(1)			Pnam* (62)	
					(14)		<i>ı</i>	Pna2 <sub>1</sub> (33)			
			l			(k)	(1)	Pnc2 (30)	······································	Pncm* (53)	
			h+l		(h)	(k)	(1)	Pnn2 (34)		Pnnm (58)	
				h	( <i>h</i> )	(k)	(1)		Annual generation	Pnna (52)	
				( h+k )	(h)	(k)	(1)			Pnnn (48)	

#### 逆結晶の対称性

\* 消滅則 例えばb軸に沿ったらせん軸21があるとする。

$$\begin{aligned} xyz \rightarrow \overline{x}(y+1/2)\overline{z} \\ F(k) &= \int \rho(r) \exp(ikr) dv \\ F(h, k, l) &= \int \rho(r) \exp(2\pi i(-hx + k(y+1/2) - lz)) dv \\ &= F(-h, k, -l) \exp(i\pi k) \\ &= F(-h, k, -l) (\cos \pi k + \sin \pi k) \end{aligned} \qquad \begin{aligned} k &= ha * +kb * +lc * \\ r_{i} &= ax_{i} + by_{i} + cz_{i} \\ k & f(h, k, l) &= F(-h, k, -l) \\ k & f(h, k, l) &= -F(-h, k, -l) \\ h &= ha * -kb * +lc * \\ r_{i} &= ax_{i} + by_{i} + cz_{i} \\ f(h, k, l) &= -F(-h, k, -l) \\ h &= ha * -kb * +lc * \\$$

$$F(0, k, 0) = -F(0, k, 0) = 0$$

0k0が奇数の反射はゼロ。

\* 最小二乗法

$$R = \frac{\Sigma \|Fo| - |Fc\|}{\Sigma |Fo|}$$

R因子を最小にするよう原子座標を精密化する。 実際には、重原子法あるいは直接法で決めた原子座標を用いてFcを計算し、それと Foを比較し、最終的にはRは0.03-0.07になれば、正しい構造と判断される。

#### \*温度因子

原子の熱振動の効果を次のようなTiに吸収させる。

$$F(k) = \sum_{j} f_{j}(k)T_{i}\exp(ikr_{j})$$

$$T_{i} = \exp(\frac{-B_{i}\sin^{2}\theta}{\lambda^{2}}) \quad B_{i}lt等方性温度因子$$

$$B_{st}lt非等方性温度因子$$

$$T_{a} = \exp(-h^{2}B_{11} + k^{2}B_{22} + l^{2}B_{33} + 2hkB_{12} + 2hlB_{13} + 2klB_{23})$$
通常最小二乗法によって原子座標ばかりでなく温度因子も精密化する。

#### 結晶構造解析の筋道

\*単結晶に単色X線を当て、回折データ| F | 収集

- \*回折データ|F|に位相を与える
- \* 逆結晶F

\*フーリエ変換して結晶の構造を求める



\* 逆格子点は周期的に並んでいるが、F(h,k,l)
 は周期的でない。
 \* 格子点のみ値F(h,k,l)有り。

\*結晶の対称性は逆結晶に反映されている。

1.12-1 図

\* ORTEP図

#### 楕円は50%の原子存在確率を表す。 高温では熱振動が大きい。





20 K





FIG. 1. Crystal structure of Mg<sub>1-x</sub>B<sub>2</sub>.

\* 銅酸化物超伝導体以降最高のTc=40.2Kだった。 →現在はニクタイト超伝導NdFeAsOy Tc=54K



第6図 フーリエ図[(a) ボロン原子面, (b) マグネシウム原子面, (c) (010)面]と
 差フーリエ図[(d) ボロン原子面, (e) マグネシウム原子面, (f) (010)面].
 等電荷線で,正(青色),ゼロ(黒色),負(赤色)を示す.

H.Mori et al., Phys. Rev. B, 65, 92507 (2002),.

## 金属間化合物超伝導体 MgB<sub>2</sub>

\* σバンド(電子格子相互作用1+λ=2.2)とπバンド(電子格子相互作用1+λ= 1.4)由来の2ギャップ超伝導体





J. Kortus et al., Phys. Rev. Lett., 86, 4656(2001).

金属一絶縁体転移 (EDO-TTF), PF。



Fig. 1. (A) Schematic views of the lattice and electronic structural changes accompanying the M-I phase transition in  $(EDO-TTF)_2 PF_6$ . A side view of an EDO-TTF molecule is shown. The unit cell ncludes two and four EDO-TTF molecules in M and I phases, respectively (15). In the I phase, holes are localized on EDO-TTF molecules with a flat structure due to CO, and quasi-neutral molecules show a bent structure. In the M phase, charges (holes) are delocalized and  $PF_6$  (acceptor) molecules exhibit disorder (15–18). (B) Schematics for free-energy change accompanying M-I transition and

M. Chollet et al., Science, 307, 86 (2005),.

光誘起転移 (EDO-TTF)<sub>2</sub>PF<sub>6</sub> **Coherent phonon** 0.24 A units 1.2 Α 0.8 180 K Reflectivity 9.0 180 K 0.20 D<sup>+</sup>D<sup>+</sup> Intensity (arb. → p<sup>2+</sup>p<sup>0</sup> 290 K 0.8 0.16 2+0 0 100 120 14 Raman Shift (cm<sup>-1</sup>) 80 0.2 I phase 180 K (180 K) 0.4 0.12 260 K 0.0 1.72 eV 0 Photon Energy (eV) 0.08 0.0 180 K 0.04 Reflectivity 260 K 1.38 eV -0.4 M Phase (290 K) ΔR/R 0.00 units) ∆t=-10 ps в в 0.16 180 K 0.12 0.0 1.49 eV (arb. R/HA-0.06 (cm<sup>-1</sup>) Photoconductivity (: 80 0.12 Energy -0.2 60 0.00 0.08 200 400 600 0 Delay Time (us) 250 50 150 ∆t=+3 ps -0.4 Temperature (K) 0.04 260 -200 K κ 180 K 230 K — 110 K 265 K -0.6 0.00 1.2 1.6 1.8 2.0 1.4 DelayTime<sup>2</sup> (ps) 0 Photon Energy (eV)

M. Chollet et al., Science, 307, 86 (2005),.

#### 時間分解X線構造解析(1)

\*時分割実験によるDVD材料(Ge<sub>2</sub>Sb<sub>2</sub>Te<sub>5</sub>とAg<sub>3.5</sub>In<sub>3.8</sub>Sb<sub>75.0</sub>Te<sub>17.7</sub>)の数十ピコからナノ 秒時間スケールで起こる消去プロセスに対応するアモルファス-結晶相変化過程のリアル タイム観察



85-206 ns より早い結晶化

# 時間分解X線構造解析(2)



Y. Fukuyama et al., Applied Phys. Express, 1, 045001(2008).

# 電場下非線形伝導の結晶構造観測: β-(BEDT-TTF)<sub>2</sub>PF<sub>6</sub>



#### Electric field response

~ V-I characteristics I-driven



#### Experimental

X-ray diffractionsynchronized with the nonlinear conduction



#### Results

at 250 K



a: 14.9367(17)<br/>b: 32.629(2)<br/>c: 6.6566(6)<br/>V: 3244.2(2)a: 14.9760(16)<br/>b: 32.648(2)<br/>c: 6.6637(6)<br/>V: 3258.2(2)+1.1%<br/>+2.6%<br/>+0.5%<br/>+0.5%<br/>+4.3% $\checkmark$  The volume of<br/>unit cell increase<br/>by 4.3%.

# Discussion



Temperature dependence

✓ Decrease in superlattice intensities from 250K to 260 K is about 2%.

#### 結晶データを調べる

#### (1)論文誌

Acta Crystallographica Section A : Foundations of Crystallography Acta Crystallographica Section B : Structural Science Acta Crystallographica Section C : Crystal Structure Communications Acta Crystallographica Section D : Biological Crystallography Acta Crystallographica Section E : Structure Reports

#### (2)データ集

\*Crystal Data, Determinative Tables (JCPDS-International Centre for Diffraction Data)

\*R.W.G.Wycoff: Crystal Structures (Interscience Publishers)

\*O.Kennard, D.G.Watson, F.H.Alen, and S.M.Weeds編 Molecular Structures and Dimensions (D.Reidel Publishing Co.)

(3)結晶学データベース
 ケンブリッジ結晶データベース (Crystallographic Data Centre, Cambridge, England)